

111 学年度第一学期ユーラシア財団 (from Asia) 国際講座
「アジア共同体：東アジア学の構築と変容」シリーズ講座 (9)
テーマ：台湾における日系外来語

中国文化大学 111 学年度ユーラシア財団 (from Asia) 国際講座の第九回目は、本学日文系助理教授の鍾季儒先生による「台湾における日系外来語」であった。鍾先生は 1997 年以来、中国語に存在する日系外来語の研究を始め、今回の講演で 25 年来の研究に基づき、外来語の基本認識から説明を始め、中国語の中に存在する外来語の特徴を述べ、特に台湾における日系外来語の種類を詳述し、歴史的な沿革と使用状況、そして日系外来語が台湾の言語社会に与える影響を分析した。

外来語の基本認識

世界の各種の言語には少なからず外来語を含んでおり、外来語は世界各国の文化交流の時に必ず発生する現象である。外来語を使う理由は通常、オリジナルには存在しない新しいもの、概念、アイデアを導入したり、オリジナルのアイテムに意図的に外来語を使って新しい感覚を与えたりする。外来語が言語の中に進入すると、その中に溶融することが可能であり、その中の一部に変化し、ただ一時的な言語現象となることも可能だが、いつの間にか消滅する。日本語の外来語は通常カタカナで表記されるので簡単に判読できるが、中国語ではすべて漢字が使われるので最初から最後まで読み通さないと外来語が何処にあるのか判断できないのである。

中国語の中にある外来語

中国人は保守的であり、新しいものや舶来物を好まず、世界のその他の言語に比べて、中国語は外来語の数が極めて少ない言語である。漢字は表意文字であり音訳に向かず、多数の外来語を作成するには時間がかかりすぎるので中国語の外来語の数は比較的少なくなる。日系外来語が大量に台湾に進入した時は清末民初と 1980 年代以後の現代であり、この二つの時点に出現した日系外来語は日常生活用語になり、頻繁に使われた。

外来語の翻訳方式は、1. 外国語の発音を借りて、最も近い漢字を用いる「音訳」、2. 外国語の意味に応じて、中国語に新語を作り出す「意識」、3. 外国語の文字を借りる「借用」の三種である。日中両国は漢字を使用するので、外来語は単語数が最も多く、漢字を使っても意味や文化は日本語化されており、借用語は日系外来語研究の主軸である。

中国語の中にある三種の日系外来語

台湾の日系外来語は年代順に、主として三つに大別され、1. 近代外来語。中国の清朝末期、西洋文明と文化が大量に中国に伝わり、同時に日本では明治維新の頃であり、西洋文化も吸収された。その時期、日中ともに大量に翻訳され、相当数の外来語が生み出され、日本の訳語はシンプルで分かりやすいため、中国語の難しい訳語（例えば、democracyは「德謨克拉西」→「民主」）が徐々に置き換えられた。この時期の日本語訳の一部は「回帰語」、つまり漢籍の語彙を日本が借りて新たな意味を加えてから中国語に戻したものである（例えば経済や社会など）。2. 残存外来語。台湾は1895～1945年の間、日本の植民地であり、長年の日本語教育の強化により、日本語が普及した。当時の台湾人は公共の場では日本語を使わなければならなかったが、帰宅すれば母語（閩南語、客家話等）を話していた。そして、自然に二つの言語が混ざり合っ、一つに融合していった。台湾の各種の言語の中に、これらの日本語の単語は残り、台湾独自の日系外来語となった。例えば、塌塌米（たたみ）、歐吉桑（おじさん）、甜不辣（てんぷら）等である。

「新外来語」の研究

第二次世界大戦終結後に日本が敗戦した時から台湾は国民党政府が統治するようになった。政府は日本統治の影響を一掃し、言語政策において日本語を廃止し、公共の場での日本語を禁止し、日本とのコミュニケーションの頻度を最小限に抑えた。時代の変化とともに日本とのビジネス交流も徐々に再開され、1987年には戒厳令が解除され、日本のポップカルチャーの輸入規制も徐々に解除された。1993年には四つのテレビチャンネルが開設され、テレビ局は遂に日本の番組を放送できるようになり、ハーリーズが出現し、社会現象となった。日本からはますます人気のある商品が増え、多くの新しい外来語が借用され、台湾に多大な影響を与えた。鍾先生は、この時期に台湾に輸入された台湾の新しい日系外来語を「新外来語」と呼び、先ず総合的な情報を把握するために、台湾で発行されている日本の情報誌『日本ダイジェスト』と『台北ウォーカー』を使って、1721語の日系外来語を収集した結果、その中の借用語が70%を占め、流行語、日常生活語、経済関係用語が最も多かった。その後、鍾先生は『自由時報』を使って、21世紀初頭に極めて活動的だった二つの「新外来語」として、「達人」と「ポケモン（ポケットモンスター）」を調査し、さまざまな「新外来語」の進化を観察し、分析し続けた。

鍾教授の最終的な目標は、「新外来語」の使用状況を確立し、より多くの人々が外来語のトピックに注意を払うようにすることであり、参加する学生が言語学習の触手を伸ばしてくれることを望んでいる。日常に使われる中国語や

日本語に敏感になることで、日本語学習の効果を高められるに違いない。

(網頁連結：<https://eurasia.pccu.edu.tw/index.php>)

(撰稿：齋藤正志 日文系・教授)